

## 第二章 人間について

### 1 ギリシア思想

#### ① 古代ギリシア

cf. 哲学以前…世界を [1] で解釈

神話・伝説 (→ myth 「神話」)

ex. [2] の叙事詩『[3]』、[4] の『[5]』…ギリシア神話を体系化

(1) 哲学の誕生 = [6] 哲学 (H) (ホップ)

(イオニア地方中心)

… [7] の探究を通して、[8] の原理をつかむ cf. [9]

万物の根源

自然 (→ physical 「自然の」)

人為、人工

∴ B.C. 6・5 C、[10] の安定と [11]

都市国家 (→ politics 「政治」) 閑(ひま) (→ school 「学校」)

1 アルケーそのものについて

[12] \_ 水

[13] \_ 数 cf. 魂の不滅と転生

[14] \_ [15] (原子)

cf. [16] 論 ∴ 心もアトムで説明

世界の根本的原理や実在を物質とみなす立場

2 アルケーの在り方について

… [17] \_ 火 cf. 「万物は [18] する」 (「パンタ = レイ」)

3 [19] にもとづく [20] の態度

理性、言葉、法

観想(観照)…理性の目で見

(→ logic 「論理」)

(→ theory 「理論」)

(2) [21] の哲学 (S) (ステップ)

…人間について but 相対的で主観的

∴ B.C. 5 C、アテネ(の古代民主政)全盛

cf. ペルシア戦争に勝利

ex. [22] \_ 「人間は万物の [23] である」

しかも各人

ものさし

cf. 各人の主観が衝突 → 弁論術の発達

∴ 「職業教師」、「<sup>きべん</sup>詭弁を弄する者」 = マイナス面  
論理的思考が重視 = プラス面

MEMO etc.